

# 令和2年度第1回全国健康保険協会和歌山支部評議会議事録

令和2年度第1回全国健康保険協会和歌山支部評議会

開催日時：令和2年7月14日（火）～令和2年7月20日（月）

開催場所：議題に関する資料等を配布し書面審議により開催。意見質問を集約し、後日事務局より回答

出席者：金川評議長、足立評議員、植田評議員、太田評議員、岡田評議員、貴冨評議員、小牧評議員、嶋本評議員、中村評議員（評議員五十音順）

## 議題

1. 令和元年度決算報告について
2. 令和元年度和歌山支部事業状況報告について
3. その他（令和2年度和歌山支部保険者機能強化予算の変更について）

## 議題 1. 令和元年度決算報告について

### 主な意見・質問

（被保険者代表）

加入者数、被保険者数の増加に伴う収入増は今後のプラス材料になる。医療費の増加をどう抑えるかを考えていく必要があると思う。

（事務局回答）

被保険者数の伸びは実質鈍化しており、今後はこれまでのような収入は見込みづらい状況です。また、医療費適正化についてはジェネリック医薬品の使用促進、資格喪失後受診の抑制など様々な取り組みを行っており KPI の指標にもなっています。協会けんぽ和歌山支部として加入者の健康増進、ジェネリック医薬品の使用促進等を通じて、医療費の適正化を推進すること等により、財政の安定運営に努めてまいります。

（被保険者代表）

準備金残高が年々増加しており、どこかで保険料等への調整が欲しい。

（事務局回答）

令和元年度単年度収支で見れば、5,399 億円の黒字となっているが、現在の平均保険料率 10% は、将来的に協会けんぽの財政が厳しくなることが見込まれる中で、できる限り平均保険料率 10% を維持できるようにする観点から、据え置いているものです。

また、医療費の伸びが保険料のベースとなる賃金の伸びを上回るという財政の赤字構造や高齢化に伴う拠出金の増大は容易に変わるとは考えられず、やはり中期、5年ないし 2025 年問題と言

われているその辺りまで十分に視野に入れなければならないという考えは変わっていません。いずれにしても、令和3年度の保険料率については、今後、支部評議会でご議論いただくこととなりますが、こうした状況も踏まえつつ、加入者、事業主の声も聴きながら考えるべき問題だと認識しています。

(学識経験者)

コロナウイルス感染症に関して病院などの受診の動向はどうなっているか。例年とどう違うか。

(事務局回答)

和歌山支部の5月分の受診件数は昨年より19%程少なくなっている。特に6歳以下で見ると4割程少ない状況です。

(学識経験者)

コロナウイルス感染症の影響は今後、準備金などにも影響が出ると思うが、今までにない事のため視点を変えて将来を見据えなければならないのではないか。

(事務局回答)

今後の保険料については、コロナウイルス感染症の影響により収入と支出がどのようになるか不明な部分が多く、感染拡大の影響による医療機関への受診控えにより、医療給付費の伸びが一時的に抑制されているという側面もありますが、現時点での協会財政の見通しは不透明であるため今後を注視していく必要があります。

また、近年は、協会財政の将来の見通しを踏まえ、平均保険料率10%を維持することで一定の準備金を確保してきたところですが、これにより、今回の経済変動の影響によって、令和2年度が赤字になったとしても、ある程度影響を吸収することができるかもしれませんが、今後、急速に経済状況が悪化することも有りうることを踏まえると、楽観視はできないものと考えています。

## 議題2. 令和元年度和歌山支部事業状況報告について

主な意見・質問

(被保険者代表)

KPIの結果で「ジェネリック割合」の使用割合が目標に届いていないが、割合を高い水準にしてほしい。

(事務局回答)

使用割合促進のためジェネリック軽減額通知の発送や路線バスでの広報、和歌山県と協働による薬局向けジェネリック調剤促進用冊子の作成など様々な取り組みを実施していますが、和歌山支部の使用割合は全国的に見ても低い状況となっています。現在はそれに加え、医療機関訪問を実施しジェネリック医薬品の使用促進について協力依頼を行っています。さらに8月よりWEBを使ったジオターゲティング広報を実施する予定となっており、これらの取り組みを通じ使用率の向上を図ってまいります。

(学識経験者)

ジェネリック医薬品については医療機関に理解を得られないと難しいと思われるため、訪問などで理解を求めることはよいと思う。

(事務局回答)

医療機関訪問の中で、数年前と比べるとジェネリック医薬品に対する考えが少しずつ変わってきているように感じています。今後も引き続き理解を求めて行きたいと考えています。

(被保険者代表)

予防医療に関連する KPI 結果の達成項目が多い事はよい。

(学識経験者)

健診項目について KPI を達成しているが、保健グループはいろいろな悩みはあると思うが頑張っている。引き続き頑張ってもらいたい。

(学識経験者)

限度額認定証の利用が 8 割程度というのは意外に低い数字だと思います。病院等の窓口の協力次第なのか。

(事務局回答)

現在も医療機関に対しては訪問などで協力を求めています。今後も引き続き協力を求め限度額認定証の使用を促進します。

### 議題3. その他（令和2年度和歌山支部保険者機能強化予算の変更について）

資料配布にて報告し、意見は特になし